

メキシコ ベリー類の輸出は最大20%減少する見込み

[FreshPlaza 2024年6月18日](#)

全国ベリー輸出業者協会(Aneberries)の事務局長であるファン・ホセ・フローレス・ガルシア氏はエル・エコノミスタ紙に対し、ベリー部門は輸出額の18~20%の減少につながる可能性のある重大な課題に直面していると語った。これは、気候変動や干ばつ(これらの現象はベリー類の品質を低下させている)、病害虫の存在、為替レートの不利な変動、熟練労働者の不足、生産コストの上昇、主要な消費市場の減速など、一連の悪要因によるものである。

同氏によると、主な輸出先は米国、カナダ、日本、中東の一部の国及びヨーロッパであるが、日本円とユーロの為替変動が状況を難しくしている。ベリー類の生産者らは新しい品種を導入し、水利用を効率化しているが、果実の品種は、メキシコの大部分に影響を与える極端な暑さや干ばつ条件に耐えるようには適応していない。

ブルーベリーの価格は特に著しく下落しており、この状況はハリスコ州とシナロア州に最も影響を与えた。同氏は(メキシコの生産ピークと重なった)チリ、米国及びペルーの収穫物との競争が価格の下落に影響を与えた可能性があると言い、さらに、熟練農業労働者が全般的に15~20%不足していると述べた。

このセクターの課題に対処するため、7月24日と25日にグアダハラハの万博会場で同協会の2024年国際会議が開催される。このイベントには、主要な生産者、輸出業者、投入資材やサービスの供給者など、約3千人が参加する予定である。このイベントでは、非生物学的ストレスとその植物自体及び植物のパフォーマンスへの影響、このセクターに対する市場の期待、労働力不足など、様々なトピックを取り上げる。開会式に先立ちチャリティーレースが行われ、集められた資金は児童養護施設に寄付される。

出典: www.eleconomista.com.mx

(関連記事)世界のブルーベリー需要が供給を上回る

[FreshPlaza 2024年6月18日](#)

ブルーベリーの世界的な需要は供給を上回っており、成長を倍増させる必要がある。同じ栽培面積で、または面積をわずかに広げれば、この目標はこの10年で達成される可能性がある。

ブルーベリーは世界の農産物の中で最も新しい果実であるにもかかわらず、現在、多様な文化を持つ世界中の地域で消費されている。ブルーベリーの消費に対する需要は、健康的な果実であるという名声が先行し、人の食事のスーパーフードとして分類されたことから世界中に急速に広まった。さらに、その市場は多様化しており、主に生鮮果実として消費されるだけでなく、果汁からジャム、冷凍食品、リキュール、ペストリー、料理等の様々な形態の食品の材料として、さらには医薬品や食品のベースとしても、また化粧品業界でも必要とされている。

世界の数字 ブルーベリー産業の現状は、世界で24万8,550ヘクタールという栽培面積に集約されており、186万60トンの生産量のうち52万9,210トンが果実加工品になるため、130万トン以上が消費者向けの生鮮果実に仕向けられている。これらは大きな数字であり、世界的な存在感のある繁栄し統合された産業について物語っている。しかし、ブルーベリー消費に対する世界的な需要の高まりを満たすにはもはや十分ではなく、すべての専門的な予測によると、世界のブルーベリー産業は今後5年間で生産量を倍増させ、300万トンに達する必要がある。

ペルーの生産性 これらの世界的な数字では、中国が際立っており、7万8千ヘクタールで52万5千トンが生産されている。米国は4万8千ヘクタールで27万7千トンが、ペルーでは2万2千ヘクタールで22万5千トンが生産されている。ペルーの場合、ヘクタール当たりの収量はすべての競争相手よりもはるかに高い。

出典: blueberriesconsulting.com